平成 28 年 度

八代市議会議会改革特別委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 議会改革に関する諸問題の調査	1
1. その他	1 1

平成 29 年 3 月 28 日 (火曜日)

議会改革特別委員会会議録

平成29年3月28日 火曜日

午前10時00分開議

午前11時02分閉議（実時間46分）

○本日の会議に付した案件

1. 議会改革に関する諸問題の調査

- ・議員定数について
- ・予算・決算について
- ・議会基本条例について

2. その他

○本日の会議に出席した者

委員長	幸村香代子君
副委員長	大倉裕一君
委員	田方芳信君
委員	友枝和明君
委員	中村和美君
委員	成松由紀夫君
委員	橋本幸一君
委員	橋本隆一君
委員	堀徹男君
委員	堀口晃君
委員	山本幸廣君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

君

○記録担当書記

増田智郁君
小川孝浩君

（午前10時00分 開会）

○委員長（幸村香代子君） 皆さん、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ

者あり）

定刻となり、定足数に達しておりますので、ただいまから議会改革特別委員会を開会いたします。

本日は、特定事件であります、議会改革に関する諸問題の調査を議題とし、調査を進めてまいります。

本日は、前回に引き続き、議員定数について、予算・決算について、議会基本条例についてを中心に審議を進めていきたいと思っております。

◎議会改革に関する諸問題の調査（議員定数について）

○委員長（幸村香代子君） それでは、まず議員定数についてですが、まず御報告をしたいというふうに思います。

先般開催しました委員会におきまして、本件に対する各会派からの御意見以外に市民の御意見を聴取するということですね、聴取団体、聴取内容などについて御決定をいただきました。その後の日程、方法については委員長に一任ということで御了解をいただいておりますので、その後、八代地域協議会及び八代地域づくり会議に対して意見聴取のための説明を行ってまいりましたので、まずはその御報告からさせていただきます。

まずですね、3月13日月曜日3時30分から、両団体の会長であらせませす徳田会長のほうにですね、趣旨説明と進め方を御相談をいたしました。そして、了解をいただきましたので、その後、八代市地域協議会、——これは21名の皆さんなんですが——につきましては3月17日金曜日午後4時から、また八代地域づくり会議、——これは30名の皆さんです——につきましては3月25日土曜日10時から、両団体に対しまして意見聴取の趣旨、議会改革に伴う現状などを説明してまいりました。

そのときに配付しました内容につきましては

ですね、今から回覧で回したいというふうに思います。この間、皆さんのところにもお上げしている資料等でもありますので、改めて1部ずつ紹介、準備はしませんでした。回覧で回したいというふうに思いますので、御一読いただければと思います。

そして、この意見聴取のですね、提出なんです、返信用封筒を入れまして、返信用封筒で返していただくということで、締め切りを4月10日月曜日までというふうにさせていただいております。

以上を御報告とさせていただきます。

本件について、何か御意見等ございませんでしょうか。

○委員（成松由紀夫君） うちの会派から、いろいろと各地域にということでお酌み取りいただいております。

ただ、手法とかそういったことは正副委員長に一任ということではあったんですが、具体的にこういった形でこういうふうに進めていきたい旨を1回委員会の中で話された上で動かれるのかなというふうにちょっと理解しておったものですから、一部、まちづくり協議会の方々から、こういう意見聴取のお願いがあったということでお話があったときに、今、議会改革でそういう取り組みをしている部分でありますのでという程度の話しかできなくてですね。

よければ、私の理解であると、こういう方法でこういうふうに進めていくんだよということを委員会の中で1回言っておいていただければ、こういった内容をよろしくお願ひしますというのが少し具体的に説明できたのかなというのがあってですね、こういうことで、こういう意見聴取をやるというやり方とか手法というものを具体的に聞いていればよかったかなというふうに思います。

まち協もですね、皆さんもそれぞれ考え方があって、どがんなとっとかいとか、唐突感が

あるとじゃないとかいという困惑された声もあれば、ああ、そういうことやってるんであれば積極的に協力していかんといかんよねっていうような声もありましてですね。できれば、進めるに当たっては、委員会にこういうことでやるというのが事前にわかるとありがたいなと思います。そうすると、我々も対応というか、こういう状況なので、こういうふうに御協力をというような話も促せるのかなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

時間がない中ということで、スピード感を持って正副委員長でばっばと動いて取り組まれたというのは理解しますけども、できればそういったことが事前にわかると進めやすいのかなというふうに思います。

○委員長（幸村香代子君） はい、わかりました。そうですね。御意見として承ります。

日程が決まった段階でもですね、こういったふうに動きますということ、また聴取の方法についてはこうですということですね、御報告しとくべきだったかなというふうに私のほうも思います。申しわけありませんでした。

（委員成松由紀夫君「いえいえ」と呼ぶ）

進め方としてそういうことと、地域協議会のところでですね、お話をしているのは、両方なんです、特に地域協議会のところは、まち協のところ、例えば校区で1つの意見としてまとめていただく必要はございませんと、出た意見をですね、いろんな御意見が出ると思うので、その御意見をですね、書いて提出してくださいということもお話しておりますので、例えば皆さんのところのまち協の中で、何か意見ばいっちょにまとめなにかいというふうな御意見とかがお問い合わせとかありましたら、それはそうではなくって、出た意見をですね、たくさん出ればたくさん出たというところで書いてくださいというふうに、ちょっとお答えいただければ助かります。よろしくお願ひいたします。

○委員（成松由紀夫君） ということは、具体的に上がってきた意見は全部、ペーパーか何かあるんでしょうけども、それに書き込んで出すということなんでしょうけども、例えば地域の中でもいろいろと賛否両論があって、具体的に意見の聴取する場面とか対象の方々がどの程度で、どういう形とかというのは、具体的にはどういう状況なってますかね。

それと、説明に行かれたときに反応はどうだったのかなというのをお聞きしたいと思いますけど。

○委員長（幸村香代子君） 特段ですね、説明にお伺いしたところについては、特段、御意見、御質問は出なかったんですが、1つ御意見としては、いろいろ御意見を出していただくということですね、例えば、どんな団体で、何人で、どうするということについてはですね、もうそれは地域協議会のところでですね、お任せをするということにしています。（委員成松由紀夫君「お任せ」と呼ぶ）はい。

徳田会長のとことですね、お話をしたときに、ちょうどそのタイミング的にはですね、ちょうど市報が配られるタイミングなんですよ。ちょうど今から、さっき27日とかって、そこについては非常に一番集まりやすい、まち協のところがですね、集まりやすい時期でもあるからということで、そしてまた、会議の開催時期であるとかメンバーであるとかということについては、1つの校区で非常にばらばらであるので、それはまち協の会長さんの判断で、それはもうそこで、どの範囲で意見を取りまとめているかどうかということについては、もうまち協にお任せをしています。

○委員（成松由紀夫君） 各校区、まち協のやり方にお任せちょうことですか。

○委員長（幸村香代子君） はい、そうです。

○委員（成松由紀夫君） 例えば、ある旧町村のまち協の方からは、少しちょっと厳しい意見

があってですね、これはまち協に振るべきことなのかというような意見がありまして、それはもう議会改革の中で、うちの自民党会派の中からも意見を出してるので御協力をという話してるのと、うちあたりは、それはいろいろな意見聞かなきゃいけないよねっていうのもあって、かなりまち協単位で温度差があるような感じで私は現在受けとつとですけども、そういうのも含めて、この間の反応というのはどうだったのかなというのがあったんですけど、特段意見はなかったということと、対象は各校区、まち協にお任せということであれば、その温度差の部分というのが多少ある部分ちゅうのは、それはもうしょうがないですかね。各校区にお任せなんですね。

○委員長（幸村香代子君） もし何かいろいろあったら、事務局のほうにですね、お問い合わせくださいということもしてるんですが、何かありましたか。（「特段ない」と呼ぶ者あり）特段ない。（委員成松由紀夫君「問い合わせなし」と呼ぶ）はい。

○委員（山本幸廣君） 関連ですけど、自民党さんのほうからこの提案をされたんですよ。

○委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（山本幸廣君） これは確認しときますから。はい。ですから、今意見が出ておるわけだと思っんですよ。それをよし悪しとか、どういふふうになったのかというのは、それははっきり言って、今からその結果として出るわけでしょう。今から出るわけでしょう。

○委員長（幸村香代子君） そうです。

○委員（山本幸廣君） でも、我々議員というのは、やっぱり組織の方々の意見というのを尊重するというのは、これはもう、そういう中で提案を自民党はされたわけですけどんから。私のところは、その点、根回したりなんかする必要何もなかし。

そういう意見をやっぱり、そういう中で委員

長、副委員長がたい、きちっとしてからです
い、アンケートが出たの、それで判断してから、
我々委員会にそれを提示していただければ。そ
れで委員会でそれをやっぱり議論していくとい
う、そういう流れをつくっていただければと。
そういう流れでしょう。（「そうです、そうで
す」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。そ
ういうことだと思います。確認していただいま
すか。

○委員長（幸村香代子君） はい、そのように
進めたいというふうに思います。

多分、成松委員のところはいろいろお声が来
たところですね、御心配をされている部分で
御発言だというふうに思いますが、よろしくお
願いをいたします。

事務局のほうにですね、特段、まちづくり会
議も含めてですね、特段、お問い合わせはない
ということですので、各ところ、意見聴取は4
月10日までということになっておりますので、
それで集約をまずは進めたいというふうに思い
ます。

それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） そのほか、議員定
数について何かございませんか。よろしいでし
ょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） じゃあ、本件、議
員定数については以上で終わりたいと思いま
すが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議会改革に関する諸問題の調査（予算・決算
について）

○委員長（幸村香代子君） それでは次にです
ね、予算・決算について審議を行いたいと思
います。

これまで、各市のですね、状況を含めた資料

をお配りして、この間、提案の分を、皆さんの、
——資料お持ちですかね。1つはこれの分と、
あともう一つが予算・決算審議というところ
ですね、その前の御意見を踏まえて、私のと
ころで取りまとめてましてですね、提案した部分
なのですが、1月24日の資料となります。

このとき提案をしましたのが、当初予算はで
すね、これまで常任委員会に分割付託をしてま
すので、その分割付託でということと、補正予
算もこれまでどおり常任委員会に分割付託と。
企業会計は決算の時期が問題があるので、これ
までどおりの常任委員会で審査をするという
ことで、大きくあったのが決算審査ですね。この
やり方について、常任委員会で審査をするとい
うふうに提案をしておりました資料が。（「資
料をください」と呼ぶ者あり）はい、済みませ
ん。ちょっとお待ちください。

じゃあ、ちょっと小会します。

（午前10時14分 小会）

（午前10時17分 本会）

○委員長（幸村香代子君） 本会に戻します。

それでは、予算・決算についてですね、審議
を行います。

お手元の資料ですが、1月24日の資料とい
うことで、その前段としてですね、1月11日
のときに意見交換やりまして、そして、1月2
4日のそれに基づいて、予算・決算審査につ
いての現状と、あわせて、じゃあこんなふうにし
たらどうでしょうかということのですね、提案
をしているものです。

提案の中身としてはですね、もう一回確認を
しますと、先ほどお話をしましたように、当初
予算はですね、これまでどおり常任委員会に分
割付託をすると。補正予算もこれまでどおり常
任委員会に分割付託をする。企業会計はですね、
決算の時期の問題がありますので、これまでど
おり所管の常任委員会で審査をすると。大きく

ですね、決算審査をどうするかというお話だったんですが、それを常任委員会ですね、審査をするというふうにしたらというふうに思います。

これはですね、愛知県のところのですね、大府市のことをですね、基本にしたものなんです、大府市の場合はですね、9月の定例会の会期中に審査がですね、行われています。こうすると、非常に会期日程がですね、延びているというふうな課題もあったので、これでは補正予算の執行がおくれるし、事業に影響があるというふうに考えますので、提案としては、9月のですね、定例会最終日に決算議案を上程、これと同じですかね。（「今までと同じ」と呼ぶ者あり）今までと同じです。これをですね、常任委員会に付託をするということにします。この場合ですね、決算になりますので、議会監査はですね、決算審査に入ることができないということになります。閉会中に常任委員会を開催して、決算審査を行うと。12月定例会初日に決算審査の常任委員会委員長報告、認定の採決ということで進めたらどうかと。つまり、今の決算審査特別委員会が開かれている、あの日程を、ざーっと言えばですね、あれを結局常任委員会ということで審議をしたらどうでしょうかということになります。

12月定例会初日に決算審査の常任委員会委員長報告と認定の採決、これも一緒ですよ。決算審査委員長の報告があるのを常任委員会委員長の報告ということでしたらどうでしょうかということですか。

で、常任委員会の日程をですね、この課題として出るのが、常任委員会の日程をですね、どの段階で決めるか。今の決算審査の場合は、特別委員会を開催して、委員を決めて、そして、それで今度は日程の相談ということになるんですが、委員長、副委員長を決めてですね、なるんですが、これを常任委員会に付託した場合、

この通常の9月の常任委員会と、あと決算審査を行う常任委員会の日程をですね、どんなふう調整するかというのがひとつ課題としてはあるかなと。

審査のボリュームがですね、非常にあるということがあるので、審査のボリュームからして、1常任委員会が1日で終わるというふうなことでは限らないので、そうすると二日ずつ。例として、これはもう一例なんです、総務が二日、文教が二日、建設環境委員会、経済企業委員会というふうな、二日ずつとったらどうだろうかというふうに思いました。

そして、この利点としてはですね、決算審査、——これがさっきの表になるんですが、この横長の表になるんですけどね、うちの委員会が、今、常任委員会の任期が2年ということになっています。そうすると、決算審査と当初予算のですね、審査を同じメンバーで行うことができるということと、当年度の、今執行されてるですね、当年度の執行状況もわかるということになるので、非常に決算と当初と当年度ということのですね、連動が図れるということです。いふならば、3年の事業のですね、3年分の事業と予算の連動が見えるという利点があるのではないかと。

それと、議員全員がですね、やっぱり予算と決算にかかわることができるということで、非常に議会のですね、チェック機能であるとか、そういったところがですね、きちんと図られていくんじゃないかということの提案をさせていただいておりました。

これをですね、持ち帰っていただくということにしておりました。そのときの委員会で大枠いいんじゃないかというふうな御意見もあったんですが、各会派のところのですね、お持ち帰りをいただくということになっておりました。

各会派のところの御意見をお聞きしてよろしいでしょうか。

○委員（山本幸廣君） はい、よろしいです。

私のところは、もう既に早くこの問題を審議をした結果ですね、流れとしてはこのままでいいんじゃないかということで、もう忘れつつありました。そういうことで、うちの会派としてはこの流れでよろしいということに結論になりましたので、御報告いたしておきます。

○委員（堀口 晃君） 成果のほうについてはですね、おおむねこの方法でお願い、いいんじゃないかということだったんですが、その中において、メリット、デメリット、利点はここに書いてあるけど、デメリットについて何か、愛知県の大府市を参考にしているという状況があるんで、デメリットが何かあるのかなというふうな意見が出たぐらいで、あとはもうスムーズな進行ができるシーンが、議員全員がこれにかかわることができる。しかも、決算と現予算と次年度の分の当初にもかかわることができるということで、非常にいいステージというか、ができるんじゃないかという、いい意見が大半でございました。

○委員（堀 徹男君） 委員長がおっしゃった提案の内容でですね、うちの会派も相談したところ、いい方法じゃないかなという意見でまわっているところです。

○委員（橋本隆一君） 今、堀口委員さんが言われたように、デメリットとメリットと、デメリットがもし何かあればちょっとお聞きしたいということだったんですけど、全体としてはこの方向でいいんじゃないかという意見でした。

○委員長（幸村香代子君） ありがとうございます。

自民党会派さんはそれぞれに。絆さんから行きますか。

○委員（成松由紀夫君） これについては、特に意欲的にうちの会派の中では、予算委員会の特別委員会をつくるような話であるとか、いろいろとる意見は出たんですけども、この案

の話をした部分で行けば、皆さんがかかわられて、一番シンプルでわかりやすく具体的にいいんじゃないかというような話が大半でございました。

○委員長（幸村香代子君） はい。ありがとうございます。ということは……、（委員大倉裕一君「はい」と呼ぶ）済みません、連合市民クラブ。

○委員（大倉裕一君） ありがとうございます。

うちのほうも提案もさせていただきましたけれども、今回の流れというのが一番、今考えられる中ではいい案ではないかということで提案をさせていただいております。ぜひこういった見直しでお願いができればということでお願いしたいと思っております。

○委員長（幸村香代子君） はい。済みません。

○委員（大倉裕一君） いいえ。

○委員長（幸村香代子君） ということは……。

○委員（橋本幸一君） 1つよろしいですか。

○委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（橋本幸一君） ちょっと私、自民党会派のときはおくれてきまして、この会議には参加してなかったもので。先ほど公明党さん、それから改革クラブさんからありましたデメリット。

○委員長（幸村香代子君） 政友会。

○委員（橋本幸一君） ああ、政友会。政友会からございましたデメリットというのは何かということ、その辺あれば示していただければと。

○委員（中村和美君） 今一緒だと思いますが、その次のデメリットか何かの、もうちょっと深く検討した中で出して、そして、そういう何がデメリットなのかということも早く議題に上げるような審議の仕方がいいと思います。

○委員（橋本幸一君） これは反対するわけじゃないんですが、非常にいい公平性に見えるやり方かなと思っておるわけですが、もしデメリ

ットがあればという、そういう。

○委員長（幸村香代子君） デメリットという点というか、課題としてですね、さっき大府市の件があったんですが、1つは大府市を参考にしたときに、9月の定例会中に全部押し込んでおられるので、9月ですね、定例会が1カ月半ぐらい長かったんですよ。そうすると、ここに書いてるように、そうすると補正予算のですね、結局9月議会なので、9月議会の開会があって、閉会のときにこの決算審査の認定も行うということになるので、そうすると非常に期間が1カ月半ぐらい任期があるので、そうすると、9月の補正予算の事業とかがやっぱりおくれる、おくれてしまうというふうなことを感じたので、これはやっぱりそうではなくて、9月の定例会は定例会としてきちんと1回やった上で、やった方がいいなと思ったので。閉会は閉会としてきちんとやって、閉会中の審査ということで行ったほうが良いということにしています。

それから、常任委員会でやるということになると、非常に日程の決め方がですね、今は、先ほどお話ししたように特別委員会なので、閉会の最終日に委員を全部決めて、そして、日程も特別委員会で決めてあるじゃないですか、今。でも、そのやり方はちょっと非常に日程がばらけてしまうので、じゃあ常任委員会として決定していくには、どんなふうに、どの時点で決めた方がいいかなというのがあると。あと、1常任委員会が1日で終わるかなというふうな懸念があるんです。

進め方としてですね、御提案をしたいのが、ここの特別委員会としてほぼこのやり方でいいんじゃないかというふうなですね、合意を得られましたら、ここで考えてたわけじゃなくて、非常に執行部との協議であるとか、事務局との協議であるとかということ、ちょっといろんな角度からちょっと検証させてもらって、それでこういった課題がありますがということでも

た御相談をするということですね、進めさせていただければいいかなというふうに思うんですが。

そうしないと、どうも私は提案をして、これでいいかなと思うけど、例えば執行部側から見ると、こういった課題があるというふうに出てくるかもしれないし、事務局側からすると、こういったところを整理しないと難しいですよとかっていう御意見もあるかもしれないので、一旦ちょっと、ここで大枠この進め方でいいんじゃないかって、方向性としてはこれでいいんじゃないかっていう御確認をいただければ、そういったふうな協議であり、相談に入りたいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○委員（成松由紀夫君） それで構わないと思うんですけども、いや、もうこの方向で行こうというか、先ほど言われたところのメリット、デメリットで、メリットはもう本当にわかりやすいところであって、そのデメリットも部分、部分ですよ。参考が大府市ということなんですけども、その大府市以外でもやるところはいっぱいあるわけでしょう。その辺はどうなんですか。大府市だけ。（委員山本幸廣君「パターンのやり方だもんな、こら」と呼ぶ）

○委員（中村和美君） ちょっと関連で。この下のはどこ市。

○委員長（幸村香代子君） 大府市。

○委員（中村和美君） 大府市。（「愛知県」と呼ぶ者あり）ああ、愛知。ここは予算規模は、はっきり言って八代とどうなのかというのが1つあるな。

○委員長（幸村香代子君） これは予算規模はどうですか。

○委員（中村和美君） 例えば600億、700億とかだったら、うちとあんま変わらないけど、1000億ぐらい超えるちいえば、また日数が変わる。

○委員長（幸村香代子君） 人口は9万。

○委員（中村和美君） 9万。なら、あんま変わらん。9万ぐらいなら、700億ですかね。（発言する者あり）

○委員長（幸村香代子君） ですね。

○委員（中村和美君） なら変わらん。変わらんなら、詰め方によっては1カ月半せずにできるということもあるし、極端に言えば、小さいところであれば、うちはやっぱりね、うちの半分ぐらいの予算だったら半分ぐらいの日程でも、1カ月半かかれば、うちはその倍の予算ならばこれは大変なことになるなという問題も出てくると思います。そこは議論で考えてやってもらうというのがいかがじゃないでしょうか。

○委員（成松由紀夫君） なので、1回この方向でちょっと研究してみようという形にしてですね、やる、やらんとか、がんと決めてそれで進めるとかじゃなくて、もうこの方向でちょっと研究しましょうということで、あとは具体的にどの辺がどうなのかというのと、また今から大府市以外のところでも参考になるような事例があればそういうのも取り込んだり、あと、角度変えて、執行部であったりとか事務方であったりとか、部分的な修正で。

もう大府市しかやってないということになれば、むしろそれを参考事例にして八代オリジナルをつくる部分であれば、そのオリジナルの部分がどういうふうにやったらやれるのか。しかし、デメリットはこういうのがあるよというのは、また次回示してもらえばいいんじゃないですか。もうきょう、多分、想像でああだこうだ言うても、結局、大府市の部分とこういう部分ですよというのがあれだろうから。

○委員（山本幸廣君） 審査の方法とやり方と中身の問題のボリュームの問題と執行部の考え方もあるけんですね。やっぱり執行部としてはこれだけのボリュームは絶対出しとかな、審査をやられたら困るという面もあるかもしれんし、我々ははっきり言って、ある程度の方法の中で

は簡素化して、一緒に分割をするわけですけど、各常任委員会に。全体の議員が、はっきり言うてできるという、これのメリットですよ。

一番の問題は、言われたように、日程の時点です、常任委員会ですね。先ほど言われたように、審査する中で特別に審査する（聴取不能）で、どこに日程を調整していくかという、この問題もやっぱり執行部のやりとりの中ではきちっと相談したほうがいいと思いますし。

流れはこういう流れでいいんじゃないですか。だから、あとは詰めとしてはですね、やっぱり執行部とのをして、言われたメリットというのはどういうメリットがあるのかというのはほしい、やっぱり物すご出てくると思いますよ。事務手続をしながら、執行部とですね、うちの議会としての。そのうちメリットは出てくると思いますけん。メリットは必ず出ると思います。それは全員の議員が見るわけですけど、審査するわけですから、一部の議員じゃなくてからですね。もうそれは一応メリットですよ。

○委員長（幸村香代子君） なんですよね。皆様の御意見を取りまとめますと、方向性としては大枠いいんじゃないかと。あと、これを議論するに当たって、もうちょっといろいろ、執行部との相談であるとか事務局との相談であるとか、ほかの他市の状況であるとかとも含めて、もう一段相談をした上でここに御提示するというところでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） わかりました。

では、そのようにですね、この方向性というか、この方向性で検討を進めるということをお確認いただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） それでは、そのように進めさせていただきます。

◎議会改革に関する諸問題の調査（議会基本条

例について)

○委員長（幸村香代子君） 次にですね、議会基本条例についてです。

本件にもですね、ついても、持ち帰りをしていただいております、1つ提示をした、県で開かれた市議会議員の研修会で紹介をされたですね、大津市のですね、議会基本条例を皆さんのところにお渡しをして、まずちょっとこれを読んできていただだけませんかということでお話をしていたかと思うのですけれども、「もう忘れた」と呼ぶ者あり）皆さん、資料はありますか。（「あります」「なか」と呼ぶ者あり）資料がない。

小会します。

（午前10時36分 小会）

（午前10時49分 本会）

○委員長（幸村香代子君） 本会議に戻します。

資料は皆さんの手元届きましたでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）議会基本条例の写しの分を皆さんのところにお渡しをしたところです。

事前に中身に目を通して、御意見、御感想をお寄せくださいということで前回持ち帰っていただいておりますけれども、何か御意見、御感想ありませんか。

○委員（成松由紀夫君） ちょっとこれ、今、私は拝見してる分は、少し目を通さんといかんとですけど、きのうの野村先生のですね、見解の中で、私の受け取り方なんです、議会基本条例をもむ前に、現場でしっかり伺ったらいかがかというような第一人者の方の御発言もあったので、基本条例については、まだそこまで進めることではないのかなというふうな印象を私は受けました。

○委員長（幸村香代子君） ほかに御意見ございませんか。

○委員（橋本隆一君） 今と関連して、きの

う先生が言われた、市長の反問権があるから一番よくないんだということだったんですが、この大津市の条例を見ると、その市長の反問権ちゅうのはどこに該当するのかなと。第18条の2項では、関連に対してのは質問することができるというふうに書いてあるんですけども、反問権そのものの意図がちょっとわからなかったのも、もしどこかあれば、逆に教えていただきたい。

○委員長（幸村香代子君） 反問権ですね。18条の2条は、これは……。

○委員（橋本隆一君） ただ確認することができるということなので。

○委員長（幸村香代子君） 確認ですよ。質問の内容の確認ですよ。

○委員（橋本隆一君） それは反問権には該当しないと思ってます。でも、あとの市長と議会との関係の中では、反問権、議員の意見に対して執行部等の意見を述べるができるというのがですね、どういうことをやられてるのかなというのがちょっとあったもんですから。

○委員長（幸村香代子君） 多分、ここの大津市のにはですね、反問権というのはないんだと思います。

○委員（橋本隆一君） だから、きのうの（聴取不能）のところはまた逆に当てはまらないのかなという印象はあります。

○委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（中村和美君） 大津市んと条例のなかなかいなというものと、文章ではなくて、実際行って聞きたいなというのものもあるんですが、その中のやっぱ、第14条の2に、議会は請願の審査に際し、請願者から趣旨の説明を聞く機会を確保するよう努めるものとするというようなことですので、ここをもうちょっと具体的に。どういう具体的にやっておられるのかなというような感じもしました。

○委員長（幸村香代子君） これは今、議運で審査をされた分ですかね。14条ですね。

○委員（中村和美君） 今言ったのは、市民参加の機会の充実という14条なんですけど、どのようにしてこう……。

○委員長（幸村香代子君） 仕組みですか、やり方ですか。

○委員（中村和美君） それをうまくやっているのかなというのはちょっと疑問に思いましたちゅうことです。

○委員長（幸村香代子君） はい、疑問に思いました。それ調査したいという話じゃないんですか。

○委員（中村和美君） ですけど、結構、僕らとしても、いい基本条例だなというふうなことは思いました。

○委員長（幸村香代子君） これは資料のですね、その後でつけてる分の解説の部分ですけど、これ、解説の部分を皆さんのところにお上げしてというふうに思うんですが、その14ページのところに、第14条の中身の解説とするには、解説の考え方で、請願の審査に際しては、その内容を考慮した上で、請願者を委員会に招致するなどして直接請願趣旨の説明を聞く機会を確保するよう努めることを定めていると。だけん、この具体的にどがんしよらすかっていう話でしょう、今の。

○委員（中村和美君） そうそう、そういう話。解説と、この条文がちょっと。まちょっと解説が具体的に書いてあれば納得するかもしれませんが、この解説でちょっとなというようなこととございます。

○委員長（幸村香代子君） 何かほかに御意見等ありますか。

○委員（橋本幸一君） またそれぞれ温度差もある、この熟知度の中で温度差もあるようでございますから、もうちょっと時間をいただきたいと思います。

○委員長（幸村香代子君） はい。
皆さんのところに、もう一度資料をお上げし

ましたので、少しまた中身を読み込んでいただくということでもいいですかね。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） じゃあ、そのように、議会基本条例については、これを参考にして少し調査を進めるということについてはよろしいですか。

○委員（橋本隆一君） 済みません、意味がわからないのが1点あったのが、通年議会の13条ですね、ここには年1回とするという意味がちょっとわからないんですけど。

第13条の議会の定例会の開催は年1回とするという意味がですね。大津市は年1回しかさっさんとだろかとか、あるいは普通、例えば……。その意味がちょっと知らないの、教えていただければと思いますけど。

○委員長（幸村香代子君） 1回開くとずっとって話だと思うんですね。1回定例会ということで、例えば4月に開く。1回定例会を開けば、もうずっと通年ですから、もうずっと審議が行われますよ、いつどのような、そういう意味です。（委員橋本隆一君「ああ、そう意味なんですか」と呼ぶ）はい。だから、定例会というのが年1回。それが言うなれば開始というか。

○委員（中村和美君） この1回というのは、当初予算の審議の1回ちゅう意味じゃなかったの。

○委員（大倉裕一君） いや、違います。

○委員長（幸村香代子君） じゃなくて、今年度、言うなれば、開会をして、開会しますって言うと、もう1年間、1年間ずっと365日、議会は開会されてますよということの意味です。（委員橋本隆一君「ああ、それで通年議会って書いてあるんですね」と呼ぶ）。はい。スタートを決めると。

○委員（橋本隆一君） ありがとうございます。

○委員長（幸村香代子君） それではまた読んでいただいて、また次に皆さんのところと意見交換をしたいと思いますが、そのように進めさせていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） それでは、3点終わりました。

◎その他

○委員長（幸村香代子君） そのほか、皆さんのところから何か御意見等ありましたらお願いいたします。

○委員（山本幸廣君） 先ほど来、成松委員からも基本条例についての、先日の議員研修会で野村氏がその発言をなされて、橋本委員からの質問に野村氏が答えたわけではありますが、その点について1点だけです。

議員定数の問題で野村氏があのような発言をいたしました。私もそれからすぐ鎌倉市等々で調査をした結果、皆さん方に、野村氏の発言と裏腹なですね、調査結果が出ましたので、皆さん方に御報告しておきます。

鎌倉市が17万の人口です。議員定数が26名です。その中で、いろんな野村氏の発言というのがほとんどありません。審議会に1つ入っておりますけれども。あのような発言の中でですね、誤解を招くような研修会で野村氏の発言についてはですね、私としては理解を得ないということで、委員長、——まあ、委員長、ここはその他でも議員定数の問題でありますので、そこらについてはですね、もう少し野村氏の発言についてはですね、自分の地元は17万の人口で26人しかいない。それに議員の報酬は野村氏が言ったとおり47万5000円やったかな、そういう状況でありましたことをですね、議員定数の中で、その他で、私が感じ、調査した結果の中でですね、御報告をいたしたい。皆さん方のひとつ議員研修の中でのですね、野村

氏の発言というのは、私は間違ってるというような感じを受けましたということです。

○委員（成松由紀夫君） 何万ですか。

○委員長（幸村香代子君） 17万で。

○委員（友枝和明君） に、26人か。

○委員（山本幸廣君） 26人。

○委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（成松由紀夫君） 今、山本先生のイメージというか、意見というか、そういうのもあるんでしょうけれども、私は逆にですね、野村先生、あれだけの今までいろいろな場面で来られて、そして、全国の自治体もあの先生の書かれた24巻のやっぱりバイブル的なものであったり、まだ日の目を見てないものも含めてですね、非常に鈴木田議長はすばらしい講師を選定されたなというふうに感じておるところでした。

その第一人者が言われる部分というのは、やはり何というんですかね、保守、革新、関係なく、中立の目の中でおっしゃってたなという感じは私は否めないなというふうに思いましたので、この議員定数の問題というのが議会改革にあるところがあって、非常に聞きたい質問でもあったなというところで、ああいう御意見でしたので、私はあの意見はしっかりと受けとめさせて審議に臨もうというふうに思っております。

以上です。

○委員長（幸村香代子君） ほかにございせんか。

○委員（橋本幸一君） 私もきょうですね、市政協力員の方が見えられて、今、議員定数をちょっと議論しとっとたいなって言われたとき、その人の1住民、市政協力員であるわけですが、野村先生の話と同じことを言われたんですね。住民の声をやっぱ幅広く吸い上げるためには、それ相応の議員が多くなければいけないという。そこはすぐ私も、きのう野村先生のお話でやっぱこういうことを言われて、あの先生の持論というのは確かに一理あったなということを感じ

したところですよ。

○委員（山本幸廣君） 私も野村氏の2回目で、私も研修でですね、その場に立ち会ったんですけども、「（山本議長のとときに最初来たって）」と呼ぶ者あり）はい、来ました。そのときはですね、本当に素晴らしい考えを持っておいりました。

で、私はきのう久しぶりに、何十年ぶりにお会いしたんですけども、年をとったなという感じで、相手もよく批判しますので、私も批判したいという気持ちになってですね、彼がやっぱりあのような研修会で、あんまりですね、批判しなければいいんですけども、彼は本当に老いたなという感じがしました。

そういう中で、人口というですね、ことをほとんどですね、言わないんですね。人口減少。人口減少がですね、一番のですね、定数の問題について議論をするという、私はそれが持論だと思うんですね。

そういうふうにお互いに感じたのを研修会で感じたということですので、まあ、そういうことでございます。素晴らしい講師ですよ。

（「山本さんも議長のとときに呼んでるんだよ」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） ほかにございませんか。（委員山本幸廣君「呼んだつは呼んだばってん、あんころはよかったたい。30年の話ばっかしよった。30年の話ばかし」と呼ぶ）

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） きのうの研修も含めてですね、さまざまな御意見があるということには、もう間違いのないことでありますし、意見聴取もですね、市民の皆さんのところからお願いをしているところでもありますので、それらも含めて検討、審議を進めていきたいというふうに思っております。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（幸村香代子君） なければですね、次に、次回の開催についてなんですが、4月13日木曜日10時から開催いたしたいと思しますので、よろしく願いをいたします。（「はい」と呼ぶ者あり）

以上で、本日の日程は全部終了をいたしました。

これをもって議会改革特別委員会を散会いたします。

（午前11時02分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成29年3月28日

議会改革特別委員会
委員長